

時の動き

女性差別発言は許せない

埼玉県 荒畑 正子

女性差別発言は許せない

東京五輪・パラリンピック組織委員会の会長を務める森喜朗元首相が、2月3日の日本オリンピック委員会（JOC）の臨時評議委員会に出席して、次のような発言をしたのです。「女性がたくさん入っている理事会の会議は時間がかかる。女性は競争意識が強く、一人が手を挙げて発言すると自分も言わなければと思うのだから。規制しないとなかなか終わらない・・」と。耳を疑う話です。森会長は翌日、反差別や男女平等の完全実施をめざす五輪精神に反するものだったと謝罪し、発言

を撤回しましたが、辞任に追い込まれました。昨年末に決定した男女共同参画基本計画に20年代のできるだけ早い時期に女性理事を40パーセントとする目標を立てている中での発言です。このような姿勢では責任ある役職は不適切です。笑い事では済まされません。森氏は過去にも「(選挙では投票を決めていない人は)関心がないといつて寝てしまってくださいればそれでいい」「子どもを一人も作らない女性を税金で面倒みるのはおかしい」等問題発言を重ねているのです。その上での今回の発言です。許されるものではありません。

大会ボランティア970人、聖火ランナー4人の辞退があり、海外からの批判もメディアを中心に当然のことながら受けました。(2月3日朝日新聞より)

男性中心の社会で・・

自民党二階俊廣幹事長は、「落ちついて静かになったら、その人たちの考えがまた変わる」と語り、森会長の進退についても「しっかりとやっていただきたいと念願する次第」とのことでした。まったく認識に欠ける発言です。憲法では法の下での平等がうたわれて



いますが、現実にはそうなっていない。男性中心の社会、ものの考え方、古い家父長制度の名残りが色濃く残り、

「女はわきまえろ」「女は主張するな」という姿勢の表れではないでしょうか。

私も長い間働き続けてきましたが、第2子を私の扶養に、健康保険も私にと申請したところ、「夫がいるから夫の扶養に」「夫に社会保険があるから社会通念上認められない」「前例がない」と認めませんでした。最終的には認めさせました。このことは、外に目を向けるきっかけになりましたし、学習、仲間の大切さを感じたことを思い出しました。女性も働き続けることは当たり前と思いましたが、いろいろ経験させられました。

変える力をもっている

世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数で日本は153カ国中121位という低さです。森会長を辞任させたことは一つの力の反映ですが、森

会長が去っただけでは差別は解消されません。

歴史的に有名な科学者が、「世界を滅ぼすのは、悪いことをするものではない。それを変えようと行動しないことだ」といったということを先日読みました。

労働組合で、MeTooで、白いジャケットで抗議、フラワーデモで……さまざまな場所で、女性たちが声を上げています。フラワーデモにも参加しましたが、男性も参加しています。女性も男性も共にあらゆる差別をなくしたいものです。大いに議論し、手をつなぎ、声を上げていきましょう。私たちは変える力をもっているのです。

(あらはた まさこ)

